

第2回 旧二葉中学校校舎利活用基本構想・基本計画策定検討委員会  
(仮称) 国際青少年センター 個別委員会

pro

Proceedings 議事録



日時 : 平成27年8月31日(月) 13:15～14:45  
場所 : 新潟市役所白山浦庁舎 白2-402会議室

出席者 委員 : 中村 恵子 (新潟青陵大学 教授)  
福島 實 (新潟市子ども会連絡協議会 会長)  
近藤 淳一 (新潟国際友好会館 館長)  
長浜 裕子 (新潟市教育委員会 教育次長)  
齊藤 裕子 (新潟市教育委員会学校支援課 副参事)

出席者 事務局 : 佐々木 克己 (教育委員会地域教育推進課 課長)  
枝並 素子 (教育委員会地域教育推進課 課長補佐)  
増田 徹 (教育委員会地域教育推進課 副主査)

出席者 策定支援 : 町田 誠 (本間総合建築 取締役)

全体進行 : 中村 恵子 (新潟青陵大学 教授)

傍聴者 : 1名

◆ 議事内容

1. 地域教育推進課長挨拶

: 佐々木 克己 (教育委員会地域教育推進課 課長)

- ・第1回の委員会では新潟市初の複合施設について忌憚ない意見を頂いた。
- ・今回の委員会では、各委員の意見の集約と施設内容の決定を行いたい。
- ・魅力ある施設をつくるには、何を作るかではなく、何を作りたいか、が重要。

## 2. 議事

### (1) 第1回委員会の意見集約、添付資料の説明

《資料》旧二葉中学校校舎利活用基本構想・基本計画策定検討委員会について(第1回)  
委員意見集約 資料1

： 枝並 素子 (教育委員会地域教育推進課 課長補佐)

#### 第1回委員会意見集約の概要を説明

- ・国際青少年センター機能とアートが融合できれば、活動の幅が広がる。
- ・芸術は社会に対して異質なものであり、アーティストはタバコや飲酒も行うことが想定され、青少年育成の観点から、また子供による作品の破損事故を避けることも含め、製作現場と生活部分は明確に区分した方が良いのではないかと。事務局としても、全部共有というのは難しいという考えがある。
- ・国際青少年センターと芸術創造ファクトリーを複合化した時に、施設運営がどのような方向性になるかの議論が必要。
- ・運営面は両施設を区分することが望ましいとの意見もある。
- ・一緒に入る良さを生かすべき、という考えは全体で一致していること。(中村委員)

《資料》大畑少年センター利用状況 参考資料 ※ 委員会終了後、回収

- ・26年度の利用状況が少ないのは、4階の未使用(冷房機器故障)のため。
- ・ロシアとの国際交流の団体が年に数回宿泊研修を実施。
- ・スポーツ少年団が泊まって強化合宿を実施。
- ・新潟ひまわりクラブ：学童保育機能

《資料》平成27年度 大畑少年センター主催事業

- ・子どもまつり、きもだめしは人気事業である。中庭にテントを張って就寝する。
- ・こどもセミナー、魚釣りとそうめん流しも人気の事業。

《資料》平成26年度 月別利用状況

- ・個人利用に、ひまわりクラブの利用人数が含まれている。
- ・ひまわりクラブは、旧二葉中には設置しない予定。移転場所は未定。
- ・人数表記は、午前、午後、夜間のコマ数の人数となっている。

《資料》大畑少年センター(設置目的) 資料2

- ・違う学校の子どもが交流できる場を提供、ということで職員がソフトを考えている。
- ・街中ではあるが、屋外炊飯も許可を得て行っている。
- ・利便性のハンデ：バスが無いこと、坂の上であること。
- ・利用者のターゲット設定を今後検討する必要がある。

## (2) 質疑とご意見

- ・大畑少年センター長（4年間）の経験から。

過去には、大畑少年センターを廃止しても良いかが議論された時期がある。

大きな課題としては、利用者数が少ないこと。5万人を超える目標は現在は達成している。

新潟小学校と大畑小学校を合併する時に、地域の住民が使える施設として残して欲しいとの地域住民から陳情があった。

また、この件は当時議会でも議論になった。（福島委員）

- ・自治会の利用は残すのか。（中村委員）

→ 大畑少年センター周辺住民と旧二葉中周辺住民とでは意見が異なる。

旧二葉中周辺の住民からは、地域住民が交流できる場所が欲しい、という意見はいただいている。

青少年センターということになると、今の大畑少年センターから利用年齢を広げることを検討していかなければならない。対象を保育園・小・中・高・大学生とすると、その他は難しいと思う。検討委員会の中で、地域の人たちも、芸術とか青少年とふれあえる場が必要という意見が出れば、そこも考えていかなければならない。

（枝並 地域教育推進課長補佐）

- ・高校生利用まで広げるという方針はどうなるのか。（中村委員）

→ 青少年という名前に変わるのであれば、青年の定義である39歳くらいまでなので、どこまで広げるか、今後決めていかなければならない。

（枝並 地域教育推進課長補佐）

## (3) 施設内容について

《資料》大畑少年センター（設置目的） 資料2

◎集団生活及び遊びを通じた健全育成

◎豊かな体験活動によるたくましい成長

### ○「海岸」「砂浜」「松林」等地の利を活かすためのソフトとそれに伴い、必要と思われる設備

- ・体験活動の内容により施設が変わるだろう。

新潟80万都市の都会の中にある良さも加味していきたい。（福島委員）

- ・具体的に都会の良さとは？（中村委員）

→ 高い建物がある、食品が多様である

ナイトウォークでは萬代橋、朱鷺メッセの夜景美を堪能できる。（福島委員）

- ・学校行事としての宿泊施設として利用する場合、県の研修センター、胎内、高柳などの施設は非日常的な所だが、旧二葉中は日常に近い場所。日常的な空間で、どのようにして非日常を作って、仲間づくりができるか。ただ、一方で、日常的な空間なので、学校に持ち帰れるというメリットを生かせないか。（長浜委員）
- ・胎内、五頭、妙高では非日常の体験で心を豊かにすることができるが、旧二葉中では、そこまでの非日常性は体験できないだろう。大きな音を出せば近隣から苦情がくる可能性がある。
- ・ランク付けするとしたら初級の体験活動の場としてはどうか、初めて火をおこす等。
- ・初級リーダー研修の場としてプログラムを組んでみてはどうか。（福島委員）
- ・都会に近いとはいえ、海岸、砂浜、松林、海水浴、散策路があることが良い。星空も良く見えるかもしれないし、波の音、潮騒の香り等、大畑少年センターよりも自然に触れ合うことができる。（近藤委員）
- ・他の施設との差別化を図るべき。アグリパークは農業の体験をしつつ学びが重視されている。  
学校規模で学年全員が泊まれる学校と泊まれない学校があるだろうから、逆に小さい学校の宿泊に向いているとPRしたり、中学校単位でリーダー研修等を行うのが良いのではないか。（齊藤委員）
- ・具体的にリーダーとは？（長浜委員）
  - 個人的には子供のリーダーをイメージしている。社会的に地域に戻って子供会の祭り等で進行役を務めるリーダー。（福島委員）
- ・ボーイスカウト的なものか？（中村委員）
  - もう少し広い意味で考えている。児童会が無くなってきているし、ファシリテーター的な力をつけるイメージ。（福島委員）
  - 地域の課題について解決できるリーダーが求められるということですね。（中村委員）
- ・そのような人材を育てる場所とか物とかは？（長浜委員）
  - 人と交流する場である教室、屋外の炊飯施設だと考えます。（福島委員）
  - 自分達でプログラムを企画まで行うというのはどうか。（中村委員）
- ・グランドの脇から海へ降りられるのか？（中村委員）
  - 今はない。
  - 歩道、信号、動線の確保やシャワー施設等も必要でしょう。（各委員）

- ・海が開けているので、使用しない手はない。中条自然の家の運営が落ち込んだ時には、カヌーで持ち直した経緯がある。今はカヌーをしたくて中条へ行く。  
(福島委員)
- ・ウインドサーフィンはどうか。(中村委員)  
→ テトラポットの内側だと難しいかと。(長浜委員)
- ・万が一の歳の監視はどうするか。(長浜委員)  
→ 人、ライフジャケット、AEDが必要。中条は緊急用のモーターボートを持っている。(福島委員)
- ・最大限海を生かす方向性がよい。(中村委員)
- ・アグリパークの意見があったが、旧二葉中は野草、野鳥の観察、夜空、雲の観察等。アグリパークは農だが、旧二葉は自然と海。また、海の生物となると、近隣に水族館があるが、こういった施設と共同でなにか活動ができないか。(近藤委員)  
→ 大畑少年センターでは、近隣の美術館とのウォークラリーは行っている。  
(福島委員)
- ・松林は砂との戦いで生まれたもの。(福島委員)
- ・キャンプを行うにあたっては、近隣住民から意見は出ていないか。(福島委員)  
→ 校舎より海側だと住宅があまりない。(中村委員)  
→ グラウンド側だと、人が好き勝手に入ってきて、24時間体制で警備が必要になる。特に夜間警備が難しい。(福島委員)
- ・テントが張れる場所、シャワーや着替える場所、炊飯をするための水回りが必要。  
(福島委員)
- ・心配なのは、海水浴やテント泊は夏だけの一時期だけの行事であること。年間を通しての視点で考えると、そこは課題。  
安全上、泳ぎは不可としているが、ハバロフスクの子供達が一番喜ぶのが海。  
期間限定でも、インストラクターを付けて教えてくれて、なおかつ安全が確保できればと。旧齋藤家別邸や美術館も喜んで見るので、これだと通年ご案内できるので、ウォークラリーにプラスできないか。(齊藤委員)
- ・海に入らなくてもサンドアートなどの砂の活用もある。(中村委員)

○ 特に平日の利用者、冬期の利用者のためのソフトとそれに伴い、必要と思われる設備

- ・平日は学校があるので利用者が少ない。高校生であれば、放課後から夜間まで利用可能。4時から8時頃までの高校生対象のプログラムを考えてはどうか。  
また、高校生に企画させるのはどうか。  
小・中学生は自分だけでは移動できないだろう。保護者が一緒。（長浜委員）
- ・動線的には高校生が通る場所ではないのでは。（長浜委員）  
→ 新潟青陵の生徒に遠回りして通ってもらってはどうか。何か引き付けるものを検討することになる。（福島委員）
- ・お祭りの時に、高校生による企画イベントを行うのはどうか。（中村委員）
- ・放課後に使いたいが足がないという人もいるが、放課後の時間帯で来れる人もいる。青少年が興味があること、例えば音楽、体を動かす、勉強する場等、定期的な利用と魅力が必要。（齊藤委員）
- ・親子で星座観察等であれば、平日も利用があるのではないか。（中村委員）
- ・平日の昼間ということであれば、幼児利用になるのではないか。  
保育園単位、幼稚園単位での利用はないだろうか。（長浜委員）
- ・小中高とした場合、放課後利用がメインになる。（中村委員）
- ・家ではできない事ができる場所づくり、大きな声を出す、いくら汚しても良いという発散の場の提供。シャワーが必要になる。（長浜委員）  
→ 手に絵具を一杯つけて遊ぶ等は芸術創造ファクトリーと連携可能。（中村委員）
- ・今回の施設は、いわゆる児童館・児童センターとは違う。大畑少年センターは子育ての場がメインの施設ではないが、場を提供している。しかし利用者は日に2組程度。  
（福島委員）
- ・児童館・児童センター、こども創造センターのような綺麗なイメージではなく、泥だらけになるようなイメージ。それは、家では出来ない体験。（長浜委員）
- ・東京のプレーパークのような泥だらけになれたり、体を大きく使えるような自由な場は、旧二葉中にはあわないだろうか。（中村委員）
- ・未就学児も遊べ、冬季の利用も可能な体育館も活用するべき。（近藤委員）
- ・平日の昼は小中高の利用は見込めないだろうから、未就学児童に積極的に利用しても

らうのはいかがでしょうか。（近藤委員）

- ・国際交流（ロシア）が利用人数を上げるのには有効。  
2週間程滞在し、大学生の利用もある。（福島委員）
- ・長岡は遠いが大学生の利用も検討してはどうか。（中村委員）

○ **創造ファクトリーとの共有部分を考えながら現在の大畑少年センターにプラスした方がよいと思われる施設**

- ・情報発信機能が必要。WEB情報や展示等。（福島委員）
- ・青少年センター機能施設は、携帯やスマホは使用不可としてはどうか。必要な時のみ貸出。電子機器から解放される空間にした方が良くはないか。（長浜委員）
  - 創造ファクトリーの方だとネットを使用して物をつくるという時代であるので、そことどうするか検討。（中村委員）
  - 創造ファクトリー機能と調整が必要。宿泊部分も禁止とするか。  
（近藤委員）
  - 大畑少年センターは現在禁止となっている。（福島委員）
  - 高校生は禁止するのは難しいのではないか。人間関係もあるので全面禁止は難しい。（齊藤委員）
  - 基本禁止だけど、場面によっては貸し出しますよ、とか対応できないか。  
（福島委員）
- ・高校では携帯の使用を禁止していないのか。（福島委員）
  - 高校の学校内の使用は高校毎の校則による。（長浜委員）
- ・新潟の伝統文化を学べるような講座に外国人にも参加して頂けると良い。  
茶道、新潟民謡 万代太鼓等、外国人が日本にきた時に、ここに行けば、体験できるという場が欲しい。（齊藤委員）
  - 今は、来ることが決まってから、どこに行くか探している。日本文化を取り入れる事は個人的には賛成。
  - 縁日、金魚すくい、ヨーヨー釣り等もおもしろい。（中村委員）
- ・昼間の利用として、何をしても良いし、誰も何も言わないような場、ドリンクルームやカフェはどうか。（長浜委員）
  - ゆったりとした空間が青少年に必要だろう（中村委員）

- ・ 日本的なことを考えると和室の空間があると良い。水屋もあれば、学習する際は良い。(中村委員)
  - 外国の方が来た時に、茶室を伝えるには水屋があると良いだろう。  
和室だと利用が限られる可能性もある。(福島委員)
  
- ・ 今日、結論が出るものではないが、駐車場の利用数。大畑少年センターが移った時の住民との関係。また、運営体制をどうするか。(福島委員)
  
- ・ どんな国と交流をおこなっているのか。(福島委員)
  - ハバロフスク、ハルピン、ピロビジャン、ウルサンの4都市と相互国際交流を行っている。
  
- ・ 現在はホームステイが中心なのか。(福島委員)
  - 先方ではホテルを用意頂いているので、こちらでもホテルに滞在頂いているのが実情。そのため、大畑少年センターでの宿泊利用は行っていない。(齊藤委員)
  
- ・ シャワーを浴びるにも文化の違いがでる。扉を開け放して床に漏水等、職員の対応が難しいようだが。(福島委員)
  - 事前に日本の文化を説明頂いているので比較的トラブルは少ない。(齊藤委員)

### 3. 連絡

(1) 第3回委員会の日程について： 日程調整表を今週中に地域教育推進課に提出

日時 : 9月28日 から 10月2日 間で決定予定

場所 : 未定

以上